

脂肪食と含水炭素食による繁殖率の差異

田所 哲太郎 橋本 治三

(北海道帝國大學理學部山下生化學研究室)

母子の榮養と人口増殖率との關係は古くより論ぜられ、外岡¹⁾は長野縣大下條村の人口増加と榮養程度を調査したもので兩者間に重大の影響あることは述べられてゐる。しかし榮養良否即ちカロリー量の低下または蛋白質攝取量の低下の問題でこの兩者が同一であつて、脂肪攝取量の高低が影響あるや否やを論じたものはない。著者等は高脂肪飼と低脂肪

表 1

分娩年月日	母體重	出生後 30 日間 1 日平均増		高脂肪出生數			低脂肪出生數		
		高脂	低脂	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)
17/11/20-12/3日	156-174 g.	— g.	— g.	6	0	0	8	9	10
18/2/10-12日	145-177 g.	1.92	1.66-1.70	8	0	0	9	8	0
18/5/28-30日	130-211 g.	1.92-2.0	1.62-2.0	4	6	6	5	9	0
19/4/4-15日	149-254 g.	1.22-1.65	1.03-1.60	8	8	0	11	8	0

飼の影響を白鼠で3代に涉りて實驗した結果、低脂肪飼群にありて繁殖率高く、高脂肪飼群にありて出生兒の體重増加の大なる傾向を認めた。米粉、カゼイン、肝油、酵母、混合鹽等の飼料で脂肪 21.8 と 3.9% との兩群で行つた。

(受附:昭和19年4月20日)

1) 外岡: 榮養學雜誌, 3: 78, 昭 18.